

* 今月号は私が担当しました。



営農経済渉外係長
木村 比呂志
〔豊里・八基地区担当〕

アライグマの被害と対策

アライグマは、ここ数年で急激に数が増え、生息範囲も広がり、管内でも捕獲が確認されています。農作物への被害は甚大で、その被害額は年間数億円とも言われています。農業者にとって、とても厄介な存在です。

アライグマとは

北米原産の動物で、日本にはペットとして輸入されました。目の周りを覆う黒いアイマスクと縞々模様の尾が特徴です。大きさは60〜100cmぐらいで、体重は大きいもので10kgにもなります。食欲旺盛かつ雑食で、昆虫・両生類・爬虫類などを分け隔てなく食べます。鶏程度の大きさの動物であれば食物とみなすので、家畜やペッ

トを食べるといった事件も後を絶ちません。日本固有の生態系に対しても大きな影響を与えるアライグマは、平成17年に、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、「特定外来生物」に指定されています。



管内で実際に捕獲されたアライグマ

繁殖力

繁殖力は強く、交尾による妊娠率はほぼ100%に近いと言われています。1回の出産で3〜6頭の子を産み、2年で成熟します。日本には猛禽類などの天敵が少ないため、人間に捕まらない限りは増えていく一方です。

行動・性格

夜行性のため、夜に農作物を荒らします。川などの水場に囲まれた農場であっても、アライグマが侵入する可能性があります。

可愛い見た目とは裏腹に、凶暴な動物です。駆除をしようとした人間に対して噛み付くこともあり、噛まれたり、引っかかれたりした場合には、感染症を予防するため、すぐに病院で受診してください。

類似生物

タヌキ・ハクビシン

〔足跡の違い〕

- アライグマは指が5本で、手のひらと指が繋がった類人猿の手形のような足跡です。
- タヌキは指が4本ですが、足跡は犬や猫と思われる形です。
- ハクビシンは指が5本で、足跡は丸く、手のひらから少し離れて5つ小さい丸が並んだ形です。

〔食性の違い〕

- アライグマは、農作物以外でもカエルやザリガニを食べます。木に成っている果物は、上から食べる場合が多く、実には爪痕がしっかりと残っているのが特徴です。
- タヌキは、木登りが下手なため、落下してきた果物しか食べません。
- ハクビシンは、自分の好物しか口にしないため、移動しながら餌場を変えていきます。また、木に成った状態の果物を下から食べるのが特徴です。

3つの対策

- ① エサを与えない
エサを与えないことが最も重要です。畑の農作物もエサに含まれるので、収穫残渣などを畑の隅に放置しないで、穴に捨て、土をかけると良いです。

- ② ねぐらを作らせない
建物の中にねぐらを作ることが多いので、家の裏・脇の外壁に、木材やはしごなどを立てかけないようにしてください。

- ③ 効率的に数を減らす
捕獲方法は、箱ワナが多く使われています。エサはバナナが効果的で、置きエサより、吊りエサが理想です。ただし、捕獲するには、外来法に基づく「防除作業従事者」になる必要があるため、勝手に捕獲はできません。また、電気柵も有効なので、嫌な場所として覚えさせる効果があります。



被害のあった農作物